

式 辞

本日ここに平成30年度宮崎国際大学卒業式を挙行できますことは、大きな喜びであります。宮崎県保育連盟連合会理事長の横山楨子様を始めとし、ご来賓各位におかれましては、公私ともどもご多忙なところ、多数のご臨席を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

国際教養学部第22期生45名、教育学部第2期生37名、卒業生82名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。日本に加え、タイからの留学生が含まれていることを大変うれしく思います。

また、これまで皆さまを育て、温かく見守ってこられたご列席のご家族の皆さまにも、お祝い申し上げます。

今日の佳き日を迎え、卒業生の皆さんは、夢を抱いて入学されてからの4年間の学生生活が思い出されているのではないのでしょうか。本学での学びを通して、見たことのない景色を見て、見たことのない自分に出会うことができましたか。未見我に大きな発見がありましたか。

今日の日を迎えるまでには、皆さんの努力に加えて、ご家族の大きなご理解とお支えがあったのではないかと思います。どうぞ、ご家族に感謝の思いをお伝えください。

私は学長就任以来、日々の勉学に励む皆さんの姿を近くで拝見してきました。早朝から夜遅くまで、学友と励まし合い、切磋琢磨しながら目標達成に向け努力する姿はまばゆいばかりでした。海外研修での生き生きとした姿、教育実習で幼児、生徒を前に奮闘する姿、就職試験等、夢の実現に向け、たゆまぬ努力を重ね、一つひとつ困難を乗り越え、この晴れの日を迎えられました。

さらに、学友会役員やアドバイザー・アシスタントとして、後輩を導く姿は、後輩の手本となりました。

皆さんが入学されてからの4年間、本学は文部科学省の大学教育再生加速プログラムに採択され、学修成果の可視化に取組みました。具体的には本学の授業で使われているアクティブラーニングを目的別に類型化し、その手法の有効性を検証する取組。もう一つは大学で学んでいくプロセスを明確にすることで、自分自身の成長を実感できるようにする取組です。先生方と職員が試行錯誤を重ね、次年度の最終年度に向け、その成果

をまとめようとしています。

取組過程で、学生の皆さんから頂いた多くのコメントがプログラムに反映されました。学生の視点から適切なコメントができる皆さんの成長は素晴らしいです。

さて、皆さんは平成最後の卒業生となります。平成の30年間は、幾度も大きな災害に見舞われました。東日本大震災、熊本地震、そして宮崎県においては口蹄疫の発生等の中で、人々は助け合い、復興に向けて懸命に歩んできました。そのような困難に打ち勝つ姿に多くの勇気をいただきました。

同時に少子・高齢化と人口減少の到来など、時代は大きな転換点に差し掛かっています。

このような中で、新たな元号と共に新たな時代が始まります。次の時代の主役は、皆さんです。皆さんが新たな歴史を創るお一人おひとりです。

本日卒業され、新たな時代を担っていかれる皆さんに「自分の道をひたすら歩む」ということをお話します。

本学は、皆さんが人として成長されることを願い2つの事を教育の中心においてきました。一つは、建学の精神「礼節・勤労」、もう一つはリベラル・アーツです。

建学の精神「礼節・勤労」で目指してきたことは、人間としての成長です。「礼節」の精神では、自他の人間性を尊重し、自らを律し、他者の立場に立って物事を考えることをめざしてきました。さらに「勤労」の精神では、心身を労して全てのことに積極的に努力することをめざしてきました。日々の生活の中では、明るくあいさつをする、感謝の念を持つ、他者を思いやる等、人としてのあるべき姿を示してきました。

また、皆さんが学んだリベラル・アーツは、物事を多面的にとらえながら、自らよく考え、世界を知り、自然を知り、そして人を深く学ぶ学問です。リベラル・アーツは、人を自由にする学問です。自由とは、身勝手に思考することではありません。自らに由って自分の在り方を決め、責任を持って自分の人生を生きていくということを学ばれたと思います。

皆さんが歩む道は、皆さん以外には誰も歩むことのできない道です。平坦な道ではないかもしれませんが、これが正解という、正しい答えのない問いの中で、自ら考え、自ら決め、行動しなければなりません。一人ひとりできることや社会から求められる役割が異なります。違うからこそ社会では、他者と協働することが求められます。

互いの違いを認め合い、対話し、協働し、自ら良く考え、学び続ける、その中で一人ひとり自らの役割を精一杯生きる、それがグローバル社会で求められることです。

加えて、新しい時代は、A・Iが益々進展することでしょう。そのような時にこそ、人にしかできないことがあります。人との繋がりには私たちに多くの気づきを与えてくれます。中でも人が直接的に影響する仕事が、保育・教育の仕事です。保育・教育の仕事は子どもたちの心に、人への信頼と学ぶことの喜びの炎を灯すことです。そのために教師が為すべきことは、保育・教育への情熱と正しい倫理観のもとで、子どもにとっての最善を求め、子どもと正面から向き合っていくことです。子どもたちの心に炎を灯す先生であって欲しいと願っています。

結びに、今日、巣立たれる皆さん、変化する時代にあって、人との繋がりを大切にしながらひたすらにご自分の道を歩み続けてください。疲れた時、いつでも大学に戻り、皆さんが学友と共に学びを深めたこのキャンパスにたたずんでください。きっと元気が出ると思います。今日は皆さんを行ってらっしゃいと送り出します。

本学での学びを地球社会の発展に貢献されますことを期待しております。「Be a Star」輝く星として、志高く、ご自分の道をひたすらに進み、素晴らしい人生を歩んでいかれることを心から願ひまして学長式辞とします。

平成31年3月9日

宮崎国際大学学長 山下恵子